

一般質問通告書

受領日時 令和7年11月26日 午前・午後 11時 55分 1番 氏名 石井 和歌子

質問項目	質問の要旨
1. 五城目の山を町づくりの柱とする	<p>(1) 岡山県西栗倉村(にしあわくらそん)の“百年の森構想”のように当町も山を中心とした町づくりを考えることが必要ではないか。西栗倉村ではほかにも村の「売り」はあったが思い切って山に集約したと聞いた。個人で持っている山の権利をそのままに利用権だけをまとめ、“みんなの山”として林道や作業道を全体で計画し山の管理を進めることで、持続可能な資源を持っている町として町内外に示すことができるのではないか。森林組合や民間企業でも進めていると思うが、そこに町づくりの観点からの施策を入れ込むことが必要ではないか。</p> <p>(2) 杉林を間伐した際に植樹する木の種類を杉だけでなく、松やブナやナラや栗・柿なども植え多種多様な山にすることで、水害やクマの出没だけでなく今後見舞われる可能性のある災害に対しリスク分散し、森林の全滅を予防することができるのではないか。</p> <p>(3) 林業体験や薪割り・炭焼きなどのワークショップで昔ながらの山仕事を体験してもらい、自然からの恩恵を受け生活できていることを今一度思い返す機会にすることで、50年・100年先の世代につなげることができるのでは思うがどう考えるか。</p>
2. クマの多数出没への対策は	<p>(1) 人や飼い犬がクマに襲われ、不安な日々が続いている。町内を通る高速道路の法面の植栽が生い茂っており、クマが移動する際の通り道になったり、移動したクマが隠れる場所となっている可能性がある。やぶ払いや草刈りをネクスコ東日本に依頼することはできるのではないか。</p> <p>(2) 散歩やジョギング・畑仕事など外での活動が制限され、町民の多くが運動不足やストレスが溜まる生活を強いられている。各公民館のほか広域体育館も体育室の一部を開放することができるのではないか。クマの出没が今後減ったとしても、体力回復のためには当面続けるなど必要ではないか。</p>

<p>3. 赤倉山荘の今後について</p>	<p>(1) 指定管理者である東北ダイケンとの契約が切れた後の経営について存続を希望する声がある。秋田市内や上小阿仁村など町外の方も利用されているので、今後について何かいい策はないか町で検討しているか問う。</p>
-----------------------	---